

<編集後記>

吉良竜夫先生を悼む

日本の生態学の礎を築かれた生態学者であり、また本会名誉会員でもある吉良竜夫先生が2011年7月19日に逝去されました。新聞の訃報に多くのみなさまが衝撃を受けられたことと思います。91歳というご高齢ではありましたが、近年までフィールドや研究会にでかけられ、自然への探求と生態系保全に向けての適確なご発言を続けられたことにあらためて敬意を表します。

1987年の関西自然保護機構会報14（1）に、「暗い時代の自然保護」と題する吉良先生の巻頭言が掲載されています。高度経済成長と引き換えに失った生活の豊かさ（自然）について論じ、自然の利用と保全に関する視点として次の二点をあげておられます。「1）地球上には、少なくとも現存するのとあまり変わらない程度の量の自然生態系を、その機能が失われることのないよう保全し、人間系（文明系）とバランスを保って共存させねばならない。2）自然生態系の利用は、その本来の機能とくに環境調節機能を低下させない程度の利用—いわゆる持続的利用（sustaining use）—にとどめるべきである」。25年を経た今なお、吉良先生の自然保護論は明解です。

2007年12月に開催した本会30周年を記念する講演会では「モンゴリアの自然」（本誌30（1）に記事掲載）と題してご講演頂きました。吉良先生が撮影された美しい自然景観、植物群落、ラクダ、ウシ、ヤクといった放牧家畜そして村人との交流などの写真を交えて、自然景観帯の植生の成り立ちから、塩湖と内陸盆地と植物群落の関係など、とっておきのお話をきかせて頂いたのは感動的でした。

個人的には、大学院時代に吉良研究室のゼミに約1年間参加し、吉良先生の生態学研究に対する考え方に多くのことを学ばせて頂きました。また、2008年に滋賀県のタブノキ林について研究発表をした際、DNA解析を含むタブノキのルーツ解明が待たれるというコメントを頂いたのが、最後の会話になってしまいました。大学院時代から今日まで吉良先生に頂いた貴重で有意義な時間にあらためて感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

本誌には、吉良先生と長年にわたって交流をもたれたKONC会員のみなさまに追悼記事を寄せていただきました。これらの記事から、先生のお人柄、自然観そして研究への視点に思いを馳せることができます。ご寄稿いただきましたみなさまに厚くお礼申し上げます。

（追記）11月20日、吉良先生を偲ぶ会がありました。ユキツバキなどでアレンジされた琵琶湖を望む会場には、几帳面な文字でびっしりと書かれたフィールドノート、植物や貝などの採集標本も展示されていました。先生の生態理論がナチュラリストとしての確かな視点から生まれたものであることにあらためて感銘を受けました。（前迫ゆり）

2011年度発刊の関西自然保護機構会誌において、編集委員以外につきの方々に査読頂きました。記してお礼申し上げます。

松井正文氏（京都大学）、波戸岡清峰氏（大阪市立自然史博物館）

関西自然保護機構

名誉会員

宮本 憲一

会長

石井 実

副会長

山西 良平

運営委員

奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護	熊井 久雄	佐久間大輔
布谷 知夫	野寄 玲児	原田 泰志	前迫 ゆり	村上 興正
和田 恵次	和田 岳			

編集委員会 (*委員長, **副委員長)

奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護**	幸田 正典	高柳 敦
立澤 史郎	布谷 知夫	原田 泰志	平井 規央	藤井 伸二
前迫 ゆり*	山倉 拓夫	和田 岳		

会計監事

堀 道雄 森本 幸裕

事務局長

山西 良平

事務局員

大久保その子

関西自然保護機構への入会希望，その他のお問い合わせは，事務局までお願いいたします。

お 願 い

1. 本機構では会誌の他に「KONCニュース」を年若干回発行しています。
各地の自然保護に関するニュースを2000字以内でお寄せ下さい。
2. 本機構では，次のものについて原則として発表先を問わず業績番号をつけることにしましたのでご協力下さい。
 - 1) 本機構が事業として行った調査研究成果
 - 2) 本機構が助成金を交付した調査研究成果
 - 3) 会誌その他，KONC出版物に掲載した調査研究論文
 - 4) 上記研究から派生して得られた結果，あるいは会員が業績番号を付した方がよいと判断されたもの本機構の出版物以外に投稿された場合の業績番号を入れる位置は，各出版物の規定に従ってください。ただし，和・欧文とも下記の表現をお使い下さい。
関西自然保護機構業績 第 号
Contribution from Kansai Organization for Nature Conservation,
no. _____
番号はその都度，編集委員会にお問い合わせ下さい。
3. 投稿規程は，会誌の奇数号に掲載します。

目 次

表紙の言葉 モンゴル国最大の淡水湖フスグル湖とそれを取り囲むシベリアカラマツ林の紅葉…浜端悦治

巻頭言

吉良竜夫先生を偲んで……………石井 実………… 73

追悼記事 生態学者吉良竜夫先生を偲ぶ

吉良竜夫先生の河内松原の家の思い出……………山倉拓夫………… 77

吉良先生と私のCWD研究……………米田 健………… 83

マレーシア, パソーでの吉良先生との生活……………渡辺弘之………… 87

吉良竜夫先生の思い出……………菅沼孝之………… 91

吉良竜夫先生との出会いのこと……………小林圭介………… 95

吉良先生との思い出つれづれ……………草加伸吾………… 97

吉良竜夫先生を偲んで—学際研究者であった吉良先生—……………浜端悦治………… 101

吉良先生に教わったこと……………梅原 徹………… 105

短報

滋賀県内の琵琶湖流入河川で確認されたナガレホトケドジョウ *Lefua* sp.について
……………長田智生・金尾滋史………… 113ナマズ腹口吸虫と尾崎腹口吸虫の分布拡大および新たに確認された宿主について
……………馬場 孝・浦部美佐子………… 117

報告

自然へのアプローチ —今, 若い研究者がとりくんでいること—15
テントウムシ類の生態と里山の生態……………桜谷保之………… 125

編集後記…………… 135

CONTENTS

COVER PICTURE

Hamabata, E.: The largest freshwater lake in Mongolia, Lake Hovsgol and turned yellow larch
(*Larix sibirica*) forest in its watershed.

KONC SAYS

Ishii, M.: A tribute to the memory of the late Prof. emeritus Tatsuo Kira.…………… 73

MEMORIES

Yamakura, T.: Memory of Dr. Tatsuo Kira and his former residence located in Kawachimatsubara.…………… 77

Yoneda, T.: The late Professor Tatsuo Kira and my ecological study on CWD.…………… 83

Watanebe, H.: Memories of good times in Malaysia spent with Professor Kira.…………… 87

Suganuma, T.: Memories of Professor Tatsuo Kira.…………… 91

Kobayashi, K.: On the reminiscences of the late Prof. Tatsuo Kira.…………… 95

Kusaka, S.: Several memories of Professor Kira.…………… 97

Hamabata, E.: A tribute to the late Professor, Director Tatsuo Kira -interdisciplinary scientist Dr. Kira-.………… 101

Umehara, T.: Suggestion got from Kira sensei.…………… 105

SHORT COMMUNICATIONS

Nagata, T. & Kanao, S.: First record of the fluvial eight-barbel Loach *Lefua* sp. from an inflowing
river of Lake Biwa, Shiga Prefecture, central Japan.…………… 113Baba, T. & Urabe, M.: Expanding distribution of pathogenic fish trematodes *Parabucephalopsis*
parasiluri and *Proserhynchoides ozakii* in Lake Biwa water system and their new host record as
second intermediate and definitive hosts.…………… 117

REPORTS

Approach to Nature -The ambition and reality of young researchers- 15.
Sakuratani, Y.: Studies on ecology of ladybird beetles and satoyama ecology.…………… 125

EDITORIAL NOTES…………… 135

関西自然保護機構会誌 33巻 2号(通算62号) 2011年12月31日発行
 編集発行人 関西自然保護機構
 事務局 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪自然史センター気付
 TEL 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306
 振替口座 00990-2-16679
 編集事務局 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1
 大阪産業大学大学院人間環境学研究科(前迫研究室)気付
 TEL 072-875-3001 FAX 072-871-1259
 印刷所 光栄堂印刷株式会社